

麦の穂

題字：かまたみさ

第50号

2014年8月
特定非営利活動法人

麦の会

TEL&FAX

022-299-1279

〒983-0834 仙台市宮城野区松岡町 17-1 郵便振替口座 02200-8-46178

E-mail : muginokai@k5.dion.ne.jp http://www.muginokai-koppe.com

みやぎアピール大行動 2014 にご参加下さい！

今こそ生かそう障害者権利条約！進めよう私たちの望む制度改革を！
～医療・介護・障害者年金・生活保護・障害者総合支援法、
私たちの生活はどうなるの～

日時 9月15日(月・祝)

場所 せんだいメディアテーク 1F オープンスクエア

アピール集会 12時30分～15時

講演 伊藤 周平氏 (鹿児島大学教授)

当事者アピール

アピール行進 15時40分～

仙台市民会館前～一番丁～仙台駅前仙都会館前解散

資料代 500円 (予定)

連絡先 鷲見 090-9740-7799 FAX022-299-1279 (コッペ内)

目次	尼崎に行ってきました	飯嶋 茂	・・・2p
	夏ボラに参加して	赤間 永望	・・・5p
		江田 彩夏	・・・6p
	コッペの旅行に参加して	明石 澄子	・・・7p
		氏家 大介	・・・8p
		阿部 央希	・・・9p
	女川から未来を考えるつどい	リレートークに参加して	
		皆川 文恵	・・・10p
	クラウドファンディングへのご協力ありがとうございました		・・・12p

尼崎に行ってきました

飯嶋 茂

NPO 法人尼崎障害者センターの広瀬さんよりお招きいただき、B-NET-CLUB の田中さんと8月18日・19日と兵庫県尼崎市に行ってきました。

広瀬さんを中心とした尼崎の皆さんは、震災後、被災地支援の一環として、コッペのクッキーをはじめ宮城県内の福祉事業所の商品を定期的に販売して頂いています。

18日の午後の集まりには、製品を買っていただいている方も含め、障害当事者の方、事業所の方・支援者等を含め40名ほどの方が参加されていました。

今回は、宮城県内の取りまとめをしている田中さんと一緒にお礼を述べると同時に、現在のコッペのことや今後に向けてどのようにしていったらいいかなどについてお話しさせていただきました。

尼崎の皆さんは、もちろん阪神淡路大震災を経験していらっしゃいますし、今後起こりうる南海トラフ地震では、尼崎市の多くの地域が津波の浸水域に想定されています。参加された皆さんは熱心に聞いて頂くと同時に、その後の質疑で出された意見には私たちも勉強になりました。

集会の前には尼崎障害者センターが運営しているパソコン工房チャレンジにも立ち寄りました。もとガレージを改造したというこじんまりしたところですが、製品の販売拠点にもなっているそうです。曲（まがり）さんと浦部さんは、障害当事者。いろいろ苦労もあったそうですが、やるぞという気合を感じました。

19日は、広瀬さんの案内で尼崎の3つの事業所を回りました。

最初に訪ねたのが、社会福祉法人あまーち。今年の6月に4階建ての事業所を新設しました。重度の人が多く、生活介護、居宅支援、相談支援を行っています。まず驚かされるのが、エレベーターの広さ。ストレッチャーも余裕で入ります。トイレもワンフロアに4つ設置しています。お風呂もリフトがつけられいかにも使いやすく、そして横になったまま入浴できる「シャワーベッド」もありました。尼崎は下町で住宅も広くなく皆さん自宅のお風呂では入浴もままならない人が多かったそうです。「国庫補助もありましたが、大半は借金でたいへんです」と施設長の加山さん。みんなのニーズに応えたいという熱い思いが伝わってきました。通ってきているメンバーの皆さんもいい笑顔でした。

2か所目は、NPO 法人みんなの労働文化センター。こちらは被災地障がい者センターみやぎにも多くのボランティアを派遣してくれました。最初に訪れた雑居工房は建てて約17年の4階建て。「あまーちさんのあとではなあ」とおしゃってましたが、中々に味わい深い建物。中では牛乳パックを回収して作られたリサイクルティッシュ「ぱっくろ」の包装作業。「ぱっくろ」はコッペにも置いてあります。つづいてポレポレハウスへ。こちらは車椅子のメンバーを中心に作業所製品のカタログ販売などを行っています。コッペのクッキーも売り込まなくては・・・。

こちらには理事長の村上さんがいらっしゃいました。村上さんも障害当事者。当事者主権が生きています。

3か所目は、NPO 法人サニーサイド。阪急園田駅前の商店街に事業所がありました。もとは衣料品店だった場所だそうです。牛乳パックを使った再生紙の製造やクッキー製造、畑をかりての野菜作り。色々やってらっしゃいました。お昼は近くにあるこれも空き店舗を利用して行っているひだまり食堂で昼食。外見も中も普通の食堂です。メニューの種類も多い。手ごろな値段で美味しかったです。人通りも多くいいなあと感じました。

この2日間、広瀬さんには本当にお世話になりました。震災を機にできたあらたなつながりのありがたさを改めて感じました。

「継続的な購入支援に」

8/19 神戸新聞
8/18! 仙台の作業所職員ら講演



講演したのは仙台市「会」の作業所「ニッペ」内のNPO法人「夢の」の飯嶋代表理事(50)

尼崎被災地支援NPOが集い

東日本大震災で被災した東北地方の障害者共同作業所を支援してきた尼崎市のNPO法人「尼崎障害者センター」は18日、仙台市から作業所の職員らを招き、「東北からのお話を聞く集い」を市立身体障害者福祉会館（尼崎市稻葉荘3）で開いた。参加者約40人が地震発生時の状況も利用者の様子などについて聞き入った。

（石川 翠）

同センターでは、震災直後からニッペで生産されたクッキーを委託販売するなど支援を続けている。

地震発生時、約15人が袋詰めや配達の際中だったといい、ほかにもなく、建物も無事だったが、道路が渋滞し、利用者を家族に引き渡すのに長時間を要したという。

「何しろ余震が怖いおひさる人もおり、震災前と同様に作業を行うことで安心させることが大切だった」とい

被災当時の状況などについて語る飯嶋代表理事＝尼崎市稲葉荘3。

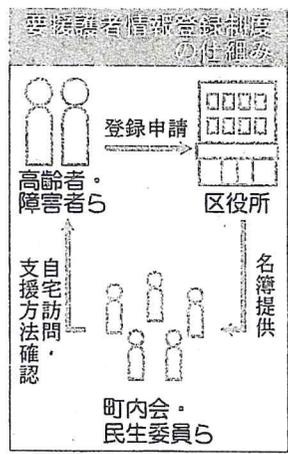
う。1カ月後には再開できたが、販売先が減少。飯嶋代表理事は継続的に購入してくれることが大きな支援になった」と同センターの支援に感謝の意を述べた。

同センターの広瀬代表理事(70)は「体験談を元に、備えておくべきことを私たちが考えていきたい」と話していた。

「共助」へ不具合

仙台市の「災害時要援護者避難支援プラン」に、支援の担い手となる町内会などから戸惑いの声が上がっている。市から提供された名簿を基に対象者の自宅を訪ねたり、当の本人が玄関先で元気に応対した例もあった。検討会を重ねてきた青葉区上杉地区の関係団体は「地域社会の負担が大きすぎる」として改善を求めている。

(報道部・上村千香)



支援プランは障害者手帳を持つ人や要介護認定を受けている人、家族の助けが見込めない在宅高齢者が対象だ。

要援護者登録の仕組みは図の通りで、対象者のうち、個人情報や町内会などに提供されることに同意した人のみ名簿に登録。市は町内会と民生委員、地区社会福祉協議会、地域包括支援センターに名簿を配布する。

支援プランは以前からあったが、市は2012年、東日本大震災を受けて登録名簿を町内会などに配る制度を導入。14年3月時点で1万3075人が登録した。各団体は現在、登録者を訪ね状況を確

■登録情報 使い勝手に難 ■死亡者や二重の掲載も

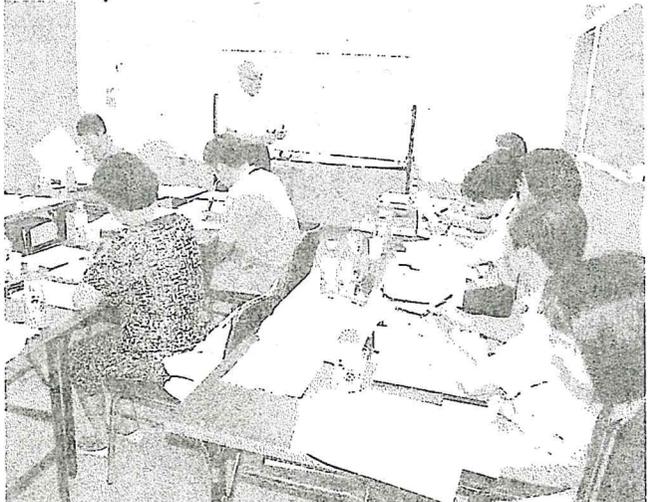
認。災害時の支援手順などを検討している。上杉地区では、名簿に基づき家庭訪問でさまざまな不具合が噴出。関係団体による今

月の日の検討会では、市の担当もも招いて課題を共有した。名簿に記載されているのは名前、生年月日、住所、電話番号のみ。勉強会では「どんな支援が必要かわからない」「マンション名や緊急連絡先、かかりつけ医なども分からない」「そもそも登録申請書にそついった情報を書き込む欄

地域の担い手にしわ寄せ

「介護状態の認定区分の低い人ばかり載っている。本当に支援を必要とする人が見落

て上杉地区社協の池田文彦会長は「市は業務を丸投げして」と言う。横浜市は名簿登録の対象者を「要介護3以上」などと規定。改正災害対策基本法に基づき、ことし4月から支援が「必要を理由」と緊急連絡先を名簿に盛り込むことにした。神奈川県横須賀市は定期的に住民基本台帳と照合。死亡者を



使い勝手の悪い登録名簿に不満が噴出した検討会＝6日、仙台市青葉区の上杉コミュニティ・センター

が尼崎でも同じようなことが起きているそうです。

夏ボラに参加して

赤間 永望

3日間ありがとうございました。私は初めて障がい者の人とのボランティア、働くという事をやりました。バイトもしたことがなく、働くことやボランティアはどうゆうことをするんだろうなど色々思い、初日はとても体に力が入り実を言うと10時ごろには結構疲れていました。でも、コッペのパンを食べさせてもらったり、少しずつですが雰囲気と和んでくると肩の力が抜けて楽しくなってきた疲れが抜けていく感じがしました。また、クッキーとパンの袋詰めが結構苦手で苦労しました。でも、こうしたらいいよと声をかけてくれて少しずつ慣れてきて3日間という短い期間でしたが成長したなと思いました。

コッペの人は積極的にお話してくれたり、話すのが不自由な人も頑張って伝えよう伝えようとして文字やカレンダーに指をさしてくれて私も嬉しかったです。今までは「障がい者の人を見ると私は助けてあげなきゃ」などとずっと思っていました。でも、関わってみると結構みんな自分の事を自分で出来る人は多いんだと思いました。だからこそ、「なんでもフォローして上げよう」ではなく、「その障がい者にとって出来ない事を助ける」ことが大切なんだなと思いました。また、障がい者の中でも軽い人～重い人までいて、その中でもフォローしあっているんだと思い、もっと社会に出られる障がい者は多いと思いました。

普通に働いている人は障がい者は「障がいをもっている」というのだけで、どのくらいの障がいなのか判断せずに社会進出を妨げてしまっているような気がします。もっと働ける場が多くあり環境が良ければ一緒に働くことも可能だし、いることで和ませてくれるなと思いました。

また、コッペはボランティアの人にも多く助けられて成り立っていることを知りました。また、ボランティアしてくださる人がいるからこそ商品価格がこのぐらいに抑えられ、障がい者が多く働く環境を提供出来るんだなと思いました。だからこそ、今の世の中で障がい者の方も働いていくことの出来る地域づくり、社会づくり、環境づくりが必要と感じました。私は今人と人の繋がる地域づくりについて興味を今持っているので、今回体験した事を忘れずに将来に活かしていく役目があると思うので今後役に立てたいです。

<最後になりますが、私のオススメはウィンナーの入ったパンです！パンが柔らかくて、ウィンナーの味とマヨネーズの味とパンの甘みがよく合い、毎回ある時には食べていました！なので、もし良かったら食べてみてください（笑）>

夏ボラに参加して

江田 彩夏

私は、8月5日から3日間、コッペでボランティアを体験しました。

コッペに行く前は、施設に近いイメージがありました。しかし、実際は一般の職場と変わらず、一人一人が協力して仕事に取り組んでいました。そこで、私は一緒に楽しい時間を過ごせたらいいな、仲良くなれたらいいな、という気持ちで接するようにしようと決めました。また、私はボランティアを重ねてきて、学んだ事を活かそうと考えました。それは、人と関わる上で言葉以外に表情で話すようにすることです。これらを実践してみると、相手も笑顔で応えて下さったり、楽しそうに話して下さいました。さらに、「江田さんのこと、気に入ったよ。」と言って下さる方もいて、嬉しかったです。また、失敗が続き、迷惑ばかりかけてしまって申し訳ないな、と思っている時に、障害者の方が、「難しいよね。これはこうやってやるんだよ。」と手本を見せて下さいました。それから、私は健常者の方だけに頼るのではなく、障害者の方にも頼るようにしました。

最初、私は一方的に辛さだけを考えていました。しかし、皆さんが明るく仕事をしている様子を見て、辛さもあれば楽しいこともあるように、多様に捉えることこそ、私たちに求められている視点だと実感しました。誰でも、沢山の人の支えがあってこそ、今の自分が存在します。障害者の方も同じで、沢山の人の協力が必要です。しかし、社会の対処は、障害者は一般社会から隔離して保護しようという姿勢です。それにより、障害者がいないような社会を作り上げてしまいます。ですから、障害者の方と交流を重ね、それぞれが自立した人間であることを、広く誰もが認知できる環境を整えることが重要です。そのような町づくりにこれからはボランティアを通して貢献していきたいです。



江田さん（前列左）と赤間さん（前列右）

コッペの一日方旅行に参加して

明日石澄子

私は、コッペの旅行に参加できて、とても楽しかったです。岩かがみ平の山から見た栗馬駒の景色は、とてもすばらしかったです。その後、プールに入って、歩く練習をしたり、手すりにつかまって浮き上がる練習をしました。初めは、うまくできななかったけれど、だんだんできるようになりました。夜は、宴会で、カラオケとゲームをしました。その後、部屋にもどって、私とせ恵ちゃんと、阿部君とカタタ君の4人で、トランプとUNOをしてあそんだり、テレビを見たりして、とても楽しかったです。2日目の朝は、7時前に起きて、朝風呂に入りました。景色も、とてもよかったですし、風呂も気もちよかったです。朝食を食べてから、部屋にもどって、荷物をまとめてから、10時ごろに栗馬駒を出発して、途中で昼食を食べました。食後のお菓子も、とてもおいしかったです。来年も、また参加したいです。

氏家 大介

くりこま高原温泉 11月11日(金) ~ 12日(土)

フツアのみんなといっしょにバスにのってホテルへ
いきました。東北自動車道を北へいきました。
途中の休息もほめた山おくるくくるくくる
とのつぼろへいきました。トンネルもなんかいも
とあっていきました。フツアのみんなでいきちん
しゃんをとりました。かつとホテルへつきました。

飯嶋さんと尾崎さんと介ちゃんの人でいきました。
また、プール温泉カラオケニニたつきゆうをしました。

介ちゃんは「ヤニーズ」のあらしをうたいました。
阿部さんとニ并さんとうたいました。
ホテルのへやでいきました。のつきのは3人でおさんぽ
しました。ちやうときんちやうしました。あみかじりをか
しました。つけものをかきました。ソフトクリーム
をかきました。たのしかったです。

コッパ 旅行

- 1 コッパ 集合 「バスに乗る、のんびり座わる
- 2 バスの中で、お菓子を食べるおっしり
- 3 エリア所 休憩コーナーです。ゆっくりするんだ
- 4 バスに移動 「まもなく栗駒に入って」このままだ
わかみ平に行つて山を見たおもしろい

ハイルゲーム 栗駒ホテル

1 プール (気持ち) 2 温泉 (暖い) 3 ゲーム、カラオケ (最高) (歌う)



3つの中で一番は皆
と一緒にプールでした

阿部 央希

女川から未来を考えるつどい リレートークに参加して

宮城県 ^{とおだぐん} 遠田郡 ^{ねやちやう} 涌谷町 元コパ耳職員 ^{みなかわみと} 皆川文恵

私の住む涌谷町から約30kmの所に ^{おしかぐん} 牡鹿郡 ^{おなかわちやう} 女川町 があります。
2011.3.11 地震・津波で被災した原子力発電所をかかえている町です。
私たちの生活の多くを支える電気を作り出すために、今までも それに住む人々と
二分する闘いが、残念ながら行われてきたといわれます。そして、これから再び、原子力
発電所を動かそうという政策のせいで、苦しみが続く可能性があります。

私は、リレートークの参加を決めた時に、鉄腕アトムをオカリナで吹こうと
思いました。アトムは原子力の平和利用のシンボルのようなもの。強さだけでなく、やさ
しさ、もろさを持った少年ロボットです。今なら、自分の力を自分で封じ込める
ことに全力を注ぐ、そう信じたかたからです。練習につき合ってくれた娘や息子
は、アトムの曲とは言わず、原発事故で被災した福島県郡山市に本社を置く「某スパー
の曲 (店内放送) だ!」と書いていました。平和の象徴 ハトをシンボルマークとして
いるだけに、新しい時代 だなーと感じました。ステージでは、音は、かすれる、
まちがえる... ^{さんざん} 惨々... な音楽でした。でも、会場の皆さんの手拍子応援
が、ものスゴい ^{power} 力になることが、身にしました。

その後、



と書いた紙を フォスリングのような真中ステージから、
四方八方見てもらいながら、話をしました。この字の4つの意味
をかみしめることが未来入つながると思ったからです。



2011.3.11以前、原発に積極的な賛成をしていなかった私ですが、(おき)強く反対も表していませんでした。原発を知ろうとしていなかったことに、『ごめんなさい』=『謝罪』。たまたま、すんでのところ、フクシマの大惨事のようなことが女川では起きず、そこから30km離れて住む涌谷町住民の私たち家族は避難せずに今があることに、『ありがと』=『感謝』。そしてこれから原発再稼働は、もってのほかだと『ことわる』=『謝絶』。そして、何より、原発ではない、再生可能エネルギー発電や電気だけに頼らない暮らしに『かえていく』=『代謝』が大事です。

少々の不便や負担もあるでしょう。でも、命とくらべれば、覚悟はできるはずです。いろんな人や生き物 みんなで、夢のある素敵未来を描いていきたいですね。

復興の在り方 住民が発表

東日本大震災からの復興の在り方について問い掛ける「女川から未来を考えるつどい」(実行委員会主催)が10日、女川町総合体育館であり、県内外から約1500人が参加した。

地元住民ら9人はリレートークで地域の将来に向けた意見を発表。津波到達点より高い場所に石碑を建てる「いのちの石碑プロジェクト」を女川中時代に進めた常盤木学園高1年の神田七海さん(16)は「避難の大切さを伝え、地域の未来について熱い思いを表現する仲間が」

県内外1500人参加し「考えるつどい」

る石碑の意義も引き継いでいかなければいけない」と訴えた。

京都大原子炉実験所の小出裕章助教は講演で東京電力福島第1原発事故による放射性物質の影響などを解説。東北電力女川原発を抱える地域の現状を踏まえ「原発立地による財源に依存しないまちづくりこそ、女川の復興につながる」と強調した。

歌手の加藤登紀子さんは「ひとり寝の子守唄」などを熱唱し、「子どもたちの笑顔があれば、どんなにつらいことも乗り越えられる」とエールを送った。

2011年3月

クラウドファンディングサイト READYFOR?「フェアトレード原料でクッキーを作り、障害者の自立へつなげる」プロジェクト。おかげさまで目標金額を達成しました。

飯嶋 茂

「フェアトレード原料でクッキーを作り、障害者の自立へつなげる」をご支援くださった皆様ありがとうございました。はじめてのクラウドファンディングで不安もありましたが、おかげ様で最終金額は、448,000 円になり目標を上回る金額を集めることが出来ました。

またそれと同時に今回のクラウドファンディングへの応募を通し、より多くの人へ麦の会の事を情報発信できたと思います。私からも直接お声掛けさせていただきましたが、フェイスブック等を通じて多くの皆様が色々な方へお声掛けして頂きました。普段の活動だけでは繋がれない方たちにも知っていただけたことは本当に嬉しいことです。

目標金額を達成しましたが、ただ、もちろんこれで終わりではなく、これからも、現地の方や障害メンバーの給料アップに、より多く反映されるよう、クッキーを作っていきたいと思います。

今心配なことは原料のオリーブ油の生産者がいるパレスチナの情勢です。連日報道されているようにガザ地区では子どもたちも含め多くの方が犠牲になっています。仙台でも 8 月 3 日に抗議の集会が行われ、私も参加してきました。

東日本大震災から 3 年半近くが経ちます。「忘れない」ことが大切だと思っています。フェアトレードのクッキーを作りながら、現地の人たちへ思いを寄せていきたいと思っています。そして障害のある人の自立へ向け歩いていきたいと思っています。

これからもよろしくお願いします。



8 月 10 日、女川から未来を考えるつどい～加藤登紀子トーク&ライブ with 小出裕章～に参加してきました。

会場はおそらく 1000 人以上の方が参加。長年石巻で反原発運動をしてきた人と話したら、長い運動の中で最高的人数だねと言ってました。この力を女川再稼働反対、廃炉へとつなげていけたらいいですね。(飯嶋)